

2015.01.07

「安部首相の靖国参拝は断固支持する」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。新年明けましておめでとうございます。今日は1月8日水曜日です。昨日の1月7日に自民党の党本部で、仕事始めの式がありまして、私も今年初めて、東京に参り、自民党の党本部での行事に参加してきました。安倍総理もお越し頂きまして、念頭の訓示をお話し頂きました。そして、その後に安倍総理と2、3言葉を交わすことができました。靖国神社に総理が参拝し、アメリカの大使館のfacebookが炎上している話も致しました。要するに、反対している方々もかなり焦っている訳です。靖国参拝がタブーにされていましたが、安部首相は堂々と靖国神社に参拝されました。この問題につきましては、年末のビデオレターでも靖国神社参拝について断固支持と申しでしたが、正にマスメディアからも批判され、また、「アメリカが残念に思っている。」ということ言いますが、それぞれの国には色々な立場があります。しかし、我々が考えなければならないことは、「一体誰が安倍総理の参拝に対し、否定をしているのか。」ということです。色々な外国が言っていると言いますが、実際には中国と韓国だけです。そして、アメリカは、「日本と中国の間に尖閣問題があり、もし中国が日本を侵害した場合、当然、日米安全保障の区域内である。」と言っていますので、アメリカ自体も有事ということになります。しかし、そんなことをアメリカは望んでいません。でき

れば、波風を立てないでいてほしいという事がアメリカの本音でしょう。そういった意味で、波風を立てるようなことを安倍総理にされると、失望したということになるのかもしれませんが、そもそもこの問題は、原因を作っているのは、日本ではありません。もともと、自分達の国のために戦った方々の英霊に対し、頭を下げ、お参りをすることはどの国でも当たり前のことであります。特に靖国神社は、その大戦のときには、「靖国でもう一度会おう。」という兵士と国家との約束です。ですから、靖国神社で参拝しないということは、不道徳、不義理であるということです。不義理をせざるを得なかった原因は、あの戦争の意味が 60 数年の間、まともに論じることが出来なかったからです。かつては、聖戦ということで、敵は米国、英国、ソビエト連邦でした。その 3 カ国に加え、中国も敵でしたが、その当時の中国は中華人民共和国ではなく、中華民国でした。そして、その中華人民共和国と日本は一度も戦ったことはありません。むしろ中国共産党は、日本を敵として、一方では国民党と合作し、もう一方で国民党を攻めるという、ゲリラ的な 2 面作戦で大陸全体を掌握した訳です。そういった事を考えますと、今の中華人民共和国との間で、我々は一度も戦争したことはなく、また、中華民国では共産党との間で内戦が起こり、泥沼状態でした。正に、自分達の戦う相手が、中国の中に引きずり込まれ、当事者能力の無い状態の中国に、日本は巻き込まれてしまったということが、現実の姿ではないでしょうか。さらに、朝鮮半島で言いますと、日韓が併合してい

る訳ですから、中国はもちろん朝鮮とも戦った事はありません。そして、朝鮮半島の方々は、日本人だった訳ですから、その当時は日本人として軍隊に参加していました。勿論、投票権、参政権もあった訳です。日本国民として、その当時は扱われていた訳です。韓国、中国とも戦争した訳でもありませんから、この問題で責められるところは実は無い筈だったんです。現に彼らもそういう事はずっと言ってこなかった訳です。

ところが、ある時を契機にこう言う問題が吹き出してきました。中国自身が軍事力、経済力を背景に領土的野心をむき出していますが、経済がどんどん大きくなってくると、中国のお国の事情、今度は自分達の内部の歪が出てきます。内部の歪に対して、国民から不満が色々と出てきますが、その不満に対して、日本を敵にする事により、求心力を得ようとしているのです。「中国共産党が今の中国の代表する唯一の政権である。」と主張が出来る最大の根拠は、日本軍を追い出したと言うことにより共産党の正統性を主張しているのです。

ですから、日本の事を悪く言えば言う程、中国共産党の株が上がる仕組みになっている訳です。しかし、それも一面からの見方であって、あの当時の中国の情勢と言うのはどうだったのか。ここはもう一度、本当は議論しなければならないところであります。また、韓国につきましても同様に、かつて、漢江の奇跡と言われたその基を造ったのは、実は軍事政権として、日本の中では非常に否定的に言われた朴正熙政権で、今の朴槿恵大統領のお父さんに当たられる

訳ですが、この時代にインフラ整備等が進んだ背景に、日本との非常に強い絆であった訳です。日本の政策をお父さんの朴正熙政権ではしっかり見習って国造りをしてきた訳です。

そして、その朴正熙大統領の娘だと言う事が、一つのブランドになって、今の朴槿恵大統領政権は出来上がっています。しかし、韓国もある程度、国が豊かになってくると、今度は自分達の歴史の中で、中国がお兄さんで自分達が次の弟、日本が一番下の弟だと思っていた一番小さな国、自分達が馬鹿にしてきた様な国に現実には日韓併合される。経済面でも負けてくる。ようやく自分達は、彼らと肩を並べるところまでやって来たが、自分達が大きく成れば成る程、その背景に日本があったと言う事を否定出来なくなってきました。しかし、その事を認めたくない訳です。そういう国民性が韓国には有ります。そういう事情でこの前の大戦について、彼らにはそういう国民感情から、あの戦争と言うのは、どうしても認められないと言う思いがある訳です。

私は、それぞれの国のそれぞれの国民感情、歴史観は仕方がないところはあると思います。しかし、問題は日本にとって、あの戦争は何だったのかと言う話です。今言ったことは、中国人や韓国人からすれば、あの戦争と言うのは、許し難い戦争であったと言う事になるんでしょう。しかし、日本にとっては逆に、自分達がここで立ち上がらなければアジアはどうなっていたのか。日本の独立は勿論ですが、今言っている中国や韓国においても、今の様な国の形は恐

らく無かったですでしょう。ロシアの一部になっていたかも知れません。そう言った事を考えますと、日本人は日本人として、堂々と自分達の国の歴史観は述べるべきです。しかし、その事を戦後60数年の間、封印して来ました。それどころか、そういう歴史の勉強を、全く我々の世代以降は教えられていません。私も勿論、学校では習った覚えが一度も有りません。習った覚えが無いどころか、逆の教育をされて来た訳です。日本の歴史が間違っていたと言う。しかし、いくらそういう教育を行われても、現実の社会の事実を見て行けば、学校で教えて来たものとは違うと言うものが見えてくる訳です。それが今、若い世代の方々にはインターネット等のメディアを通じ、色々なところで証拠を見て確信しておられる訳です。ですから今回、安倍総理の靖国参拝には若い世代の方々の賛同が非常に高いと言う事も伺っています。そして、逆に我々から戦後の教育、民主教育と言われる歴史否定の教育を受け、また、歴史を知らない大人の方が、実は無意識に、直感的に安倍さんに対して、NOと言ってしまふところがあります。今回の安倍総理の靖国参拝は、何度も言いますが私は支持を致しますが、同時に、安倍総理の行動は、今までの日本人のタブーに挑戦していく、非常に勇気ある覚悟の話であります。それだけに我々が、メディアや韓国、中国と言う外国をはじめ、様々な意見に対して堂々と、我々の主張をしっかりと行っていかなければなりません。そして、この靖国問題は政治問題にしてはなりません。「この問題を突けば、日本から譲歩を引き出せる。」と言う誤った外

交メッセージは、もう2度と彼らには通じない、と言う事を示していかなければならないと思います。

年始め、安倍総理にお会いした時も、非常に自信を持って安倍総理は、「彼らも焦ってきているようだけれども、我々はここで妥協する事は出来ない。堂々とやって行く。」と言う趣旨の事を私にお話頂きました。断固、私も安倍総理を支持していきたいと思っています。

本日も御覧頂きありがとうございました。